

令和2年7月豪雨による現地調査 (鹿児島県鹿屋市根木原町)

令和2年7月6日に国道220号142k940付近(鹿屋市根木原町地先)の山側斜面が崩壊し、崩壊した土砂及び倒木が路上に流出した。斜面は依然として不安定な状態が見られたため、現地状況の詳細な把握及び対応策の検討のため、学識者による現地調査を実施した。出席者:鹿児島大学 北村名誉教授

● テックドクターによる調査(令和2年7月6日)



【今回の斜面崩壊について】

- ・奥の地形が分からないが、国道からみている感じではシラス地形の沢地形で水が集まったことによる表層崩壊であると思われる。
- ・崩壊面は概ね土砂は落ちており、崩壊法面部分に少し残っている状況と思われる。

【対策方法について】

- ・今後この状況が長引いたり多量の雨量があった場合は想定が難しいため仮設防護柵等を行えば安全だろうと思う。
- ・本復旧は、表面水の浸透による崩壊なので法面保護と水路工のような対策を行った方がよいと思う。